

文化財 見聞録

町指定文化財「小野さつきくんだう い とくけんしやう訓導遺徳顕彰映画フィルム」 96年前の悲話と当時の宮地区の姿を映す



故 小野さつき訓導
(享年22歳)

大正11年7月7日、宮尋常高等小学校（現在の蔵王町立宮小学校）の小野さつきくんだう訓導（現在の教諭）は、4年生の児童を連れて学校からほど近い白石川の河原へ写生の授業に出かけました。しばらくして、川に入った3人の児童が誤って深みにはまり、溺れそうになっているのに他の児童が気づき、声を上げました。小野訓導は着物を着たまま川へ飛び込み、2人を助けました。そして残る1人を助けようと再び川へ飛び込みましたが力が尽き、児童とともに帰らぬ人となってしまいました—。

今から96年前に起きたこの悲しい出来事を記録した映画フィルムが発見されたとの報せが、平成27年に宮小学校に舞い込みました。北海道の古い映画館の倉庫に眠っていたそのフィルムは、3巻組以上の作品のうち1・2巻のみが残されていました。これまで、小野訓導を主人公にしたいくつかの映画が作られたことは知られていましたが、実物が確認されたのは初めてのことです。小野訓導の顕彰活動けんしやうを続けてきた小野さつき訓導遺徳顕彰会はこのフィルムを入手し、大切に保存するとともに、デジタル映像として現代に蘇よみがえらせました。

「大正11年7月7日椿事 人生乃花 殉職訓導 噫々小野女教員」と題した制作者・制作年不詳（大正11年頃か）の35mmモノクロ無声映画フィルムには、宮地区の現地で撮影された再現映像と、1万人もの人びとが参列したという小野訓導の葬儀（村葬）の実録映像が収められています。現存する大正時代の映画フィルムは全国的にも少なく貴重であることに加えて、当時の経緯の克明な記録と、宮地区の様子や人びとの姿を映した貴重な郷土資料としての性格を有していることから、町指定文化財に指定されました。

フィルムに収められた映像は、当時の人びとがこの出来事をどのように受け止めたのか、そしてかつての宮小学校や宮地区の町並み、子どもたちや町の人びとの服装、葬儀の様子など、百年近くの時を越えて郷土の様々な事柄を私たちに伝えています。

映画の各場面。上から①映画の表題。②宮小学校の朝礼。③白石川の河畔で写生の指導。④宮町を進む小野訓導の葬列。⑤葬列が児童と共に三谷寺へ入る。②・③は再現、④・⑤は実録映像で、いずれも大正時代の宮地区で撮影されたもの。

文化財 散歩道

円田盆地を一望する室町～戦国時代の山城

ひょうろうだてあと 兵糧館跡

円田盆地北西部の小村崎地区にある兵糧館跡（^{ひょうろうだてあと}兵衛館跡）は、標高228mの丘陵上にある山城跡です。小村崎地区の集落ととの高低差は約130mあり、円田盆地やその周辺を一望することができます。

館の構造は頂上に大きな平場を持ち、周囲に土塁^{ひらば}や空堀^{どあい}、通路などの施設を配しています。平成5～12年には、東北福祉大学が発掘調査を行ないました。この山城が築城された目的や時期、城主については確かな記録がありませんが、室町時代頃に築城され、戦国時代にも使われたと考えられています。

館跡は小村崎区住民の皆さんの手によって美しい史跡公園として整備され、500年以上前の大規模な土木技術の痕跡を今に伝えています。



頂上から見た円田盆地の水田地帯と円田地区の集落

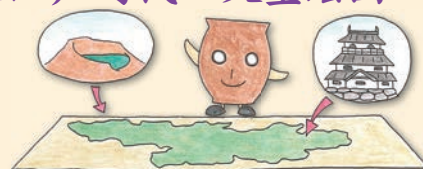


急勾配の土塁と空堀が館の守りを固める

受贈 資料

白石城主・片倉家の領地一円を描いた江戸時代の大型絵図

かたくらけちぎょうちえず 片倉家知行地絵図



江戸時代の白石城主・片倉家の領地であった現在の白石市の大部分と蔵王町の宮・遠刈田地区を描いた「片倉家知行地絵図」が、このほど所有する沢内共有会から町に寄贈されました。

絵図は約3.8m×4.2mの大きさで、地形や道筋、屋敷地、田畑などを極めて精密に描いているほか、山林は植林地と天然林が描き分けられています。現在では知られていない地名なども記されており、当時の地域の様子を詳しく知ることができます。

今後は絵図の保存状態を調査したり、製作された年代などについて調査・検討していきます。



御釜周辺（蔵王山頂）



絵図に描かれた範囲



江戸時代の地形や屋敷地を精密に描いた絵図（寄贈式にて）



宮町周辺（蔵王町宮）



白石城周辺（白石市益岡町）

発掘 速報

縄文・平安時代の住居跡などを発見！

ね か た い せ き 根方A遺跡



根方A遺跡は宮地区の松川流域を望む台地上にある遺跡です。工事計画に伴って計画地の地下の状況を調べる確認調査を実施したところ、縄文時代中期（約4,000年前）と平安時代（約1,000年前）の遺構が確認され、当時の集落跡であることが判明しました。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡1軒、敷石遺構などがあり、縄文土器や石器が出土しています。敷石遺構は一部のみの確認ですが、特殊な住居か祭祀施設などの可能性があります。平安時代の遺構は竪穴住居跡8軒などで、町内では確認例の少ない10世紀頃の集落跡と考えられます。

関係各位のご協力により、これらの遺構を現状保存した上で事業が進められることになりました。



平安時代の竪穴住居跡（左手前がカマドの跡）



石材を平らに敷き並べた縄文時代の敷石遺構



縄文時代の竪穴住居跡（直径約5.2mの円形）

文化財 Q&A

「遺跡」は法律で保護されていると聞きました。
「遺跡」がある土地には家を建てられないのですか？

住居跡や古墳、土器や石器など、昔の人びとの活動の痕跡が残されている場所を「遺跡」と言い、町内には約200か所が登録されています。

遺跡のほとんどは地中に埋もれているため、実際に発掘調査されて私たちの目に触れるまで、その内容や重要性が分かりません。このため、文化財保護法では全ての遺跡が保存の対象とされ、遺跡範囲内で工事等を行なう場合は、事前の届け出が必要です。

届け出に対する取り扱いは工事の内容や遺跡の状況によって異なりますが、多くの場合、工事予定地の部分的な発掘調査（確認調査）を行なって住居跡などの「遺構」の有無を調べます。遺跡範囲内であっても、遺構が残っていない場所であれば工事が可能です。また、遺構が残っていても、個人住宅など小規模な建物であれば、地下の遺構を保存することを条件

として工事が可能です。

一方、土地造成や工場建設などで地下の遺構を壊すことが避けられない場合は、工事の前に全面的な発掘調査（本発掘調査）を行なって遺跡の記録を作成し、出土品などと一緒に保存することになります。

遺跡の調査技術は年々進歩しており、出来るだけ多くの遺跡を保存して将来に託すことが望ましいのですが、現在の私たちの暮らしも大切です。町教育委員会では、工事計画と文化財保護が出来る限り両立できるよう、工事を計画される方の相談に応じたり、県教育委員会と連携して調整を行なっています。

※町内の遺跡地図や工事等を行なう場合の手続きについてはホームページをご覧ください。町教育委員会へ直接お問い合わせください。



文化財トピックス

仙台真田氏歴史セミナーを開催

真田幸村・後藤又兵衛～二大英雄の末裔が対談～

3月18日(日)にございんホールで仙台真田氏歴史セミナー「真田幸村と後藤又兵衛 ～大阪の陣二大英雄の生涯とその子孫たち～」を開催しました。当日は町内外から約300人が来場し、司会の小栗さくら氏と真田家当主の徹氏、後藤家当主の基保氏による軽妙な歴史トークに聞き入りました。

また、歴史セミナーにあわせて、幸村公着用と伝わる甲冑や采配、仙台藩で養育され現在の蔵王町に暮らした幸村公の末裔に関わる古文書など、真田家所蔵の歴史資料の特別公開も行なわれました。



町の歴史や昔の暮らしに触れる

出前授業で遺跡出土品や収蔵民俗資料を紹介

町教育委員会では、小学校の社会科や総合学習にあわせて出前授業を実施しています。小学3年生の社会科「昔の暮らし」の授業では昭和30年代まで町内で使われていた民具や農具、小学6年生の社会科「日本の歴史」の授業では町内の遺跡から出土した縄文土器などを教室に持ち込み、実際に手で触れながら当時の暮らしについて考えます。

また、野外授業では学校周辺の遺跡へ繰り出し、古墳や城館のスケールを体感したり、土器片が散

布している様子を見学します。

地域に残る歴史資料や遺跡を通して町の歴史を身近に感じてもらうと同時に、歴史豊かな蔵王町をもっと好きになってもらえたら嬉しいです。

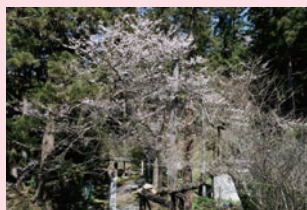


— 2018年春の開花状況報告 — 桜

町指定保存樹木の桜



鬼子坂の桜 (北境)



水神龍桜 (新町)

平沢小学校の枝垂桜 (平沢)

最新の情報はWEBでチェック!!

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ

どきたんドットコム <http://www.dokitan.com>

町内の歴史や文化財に関する詳しい情報や、最新のイベントの情報などをお知らせしています。

蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.001

平成30年(2018年)6月発行 [不定期発行]

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北 10 番地

蔵王町役場東庁舎 文化財整理室内

TEL 0224-33-2328 FAX 0224-33-3831

E-Mail info@dokitan.com WEB <http://www.dokitan.com>